

情報に関連させて読む
 (資料を参考に、漢字について考える)

組 番 氏名

【新聞記事】と、それに関連して探した情報を小川さんがまとめた【資料】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

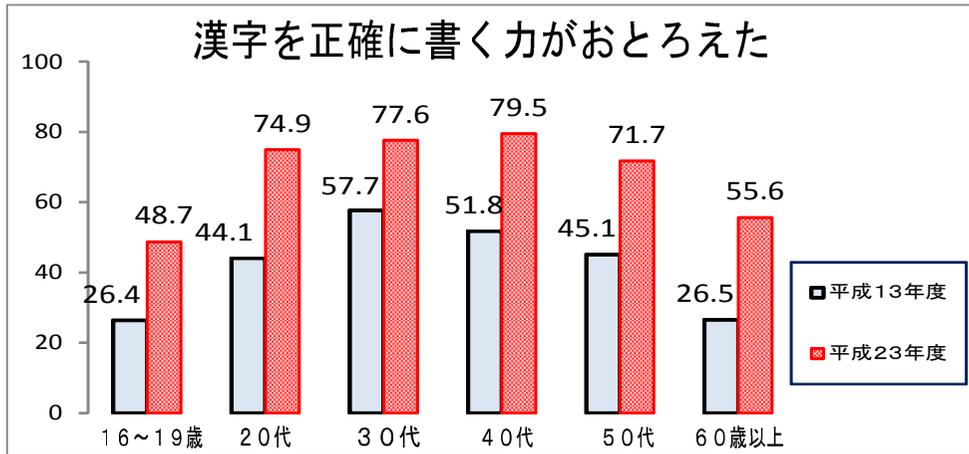
【新聞記事】

「書く力がおとろえた」 六十六・五%

携帯電話や電子メールなどの普及によって「漢字を正確に書く力がおとろえた」と感じる人が六十六・五%に上り、平成十三年度調査時より二十・二ポイント増えたことが二十日、文化庁の「平成二十三年度国語に関する世論調査」で分かった。

文化庁 国語に関する世論調査

漢字、正確に書けますか？



調査では、携帯電話や電子メールなどの普及による情報交換手段の多様化が、日常生活に影響を与えている例として思い当たることを複数選択で質問。その結果「漢字を正確に書く力がおとろえた」と回答した人が大幅に増えた。年齢別に見ると、二十代から五十代で七割台となっており、平成十三年度には二割台だった十六、十九歳と六十歳代以上でも、それぞれ、五割弱と五割半ばとなっている。

また、すべての年代で平成十三年度の結果よりも今回の調査結果の割合の方が小さくなっており、最も差の小さい三十代で十九・九ポイント、最も差の大きい二十代では三十・八ポイントの差となっている。このほか「手紙やはがきは余り利用しないようになった」が十五・六ポイント増の五十七・二%、「手で字を書くことが面倒くさく感じるようになった」が十・一ポイント増の四十二%となった。

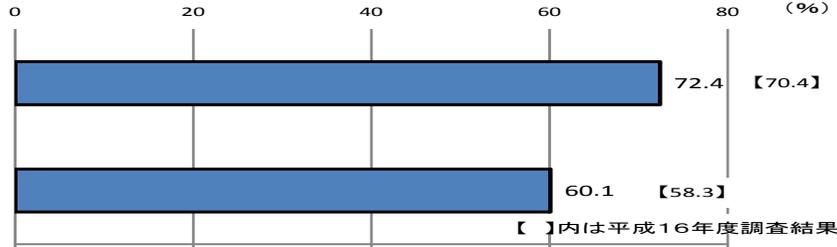
中学校の国語科教諭(四十七歳)は、「似た形の文字の使い分けや同じ読み方をする語句の区別などについては、今後も注意して教え、情報機器と上手につきあえるようにさせたい。」と話した。

平成二十四年九月二十一日 (金) 「全国新聞」朝刊より

漢字についての主な意識

日本語の表記に欠くことのできない大切な文字である

漢字を見るとすぐに意味が分かるので便利である



(文化庁「平成21年度 国語に関する世論調査」による。)

小川さんがまとめた【資料】

H25 全国学力・学習状況調査から作成

(二) 【新聞記事】の書き方の特徴を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4ま

【新聞記事】は見出し、リード文、グラフ、本文の四つで構成されています。その特徴として、見出しやリード文で要点を最初に述べ、「国語に関する世論調査」を基にした具体的な数値を取り上げながら、本文が書かれています。

〈解答のポイント〉

【新聞記事】では、漢字を書く力が衰えたと感じているひとの割合が増えていることが平成十三年度との比較で述べられています。【資料】には、「(漢字)は日本語の表記に欠くことのできない大切な文字である」、「漢字を見るとすぐに意味がわかるので便利である」といった項目が示されており、漢字に対する人々の意識がわかります。

〈解答のポイント〉

次の条件を満たしていれば正解です。

- ① AとBのいずれかの一つの〈間違いやすい漢字の例〉を選んで、その記号に○を付けている。
- ② 選んだ〈間違いやすい漢字の例〉について、二つの漢字の共通点や相違点など漢字の特徴を適切に取り上げて書いている。
- ③ 条件②に応じて、2つの漢字を学習する際の注意点や二つを具体的に書いている。
- ④ 七十字以上、百十字以内で書いている。

〈間違いやすい漢字の例〉

A

拾・捨

B

厚・熱

〈Bを選んだ場合の解答〉
 どちらも「あつい」と読むので、「厚い本を読む」(厚さ)、「熱いお茶を飲む」(温度)といったような例文をつくって、意味の違いをはっきりさせて覚えましょう。(七六字)

選んだ間違いやすい漢字の例

A

B

(○を付けてください)

い	と	二	分	違	く	漢	一
ま	間	つ	の	い	り	字	拾
す	違	の	字	が	の	で	一
。	え	漢	形	あ	一	つ	と
110	ず	字	の	り	部	く	一
	に	を	違	ま	が	り	捨
	使	並	い	す	一	も	一
	い	べ	に	。	一	似	は
	分	て	注	だ	一	て	、
	け	書	意	か	か	い	同
	ら	い	し	ら	一	ま	じ
	れ	て	な	、	土	す	て
	る	覚	が	そ	一	が	へ
	と	え	ら	の	か	、	ん
	思	る	、	部	の	つ	の

共通点や相違点など漢字の特徴を自由で書くこと。

1

2

